

平成 20 年度

絵本とおはなし大好き講座 実施報告書

主催：おはなしがらがらどん

助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構
『子どもゆめ基金』

平成20年度

「絵本とおはなし大好き講座」要項

会場＝成田市立図書館2階集会室

講座日程と内容

回	開催予定	時間	テーマ	講師	学習目的
1	10月9日 (木)	10:00 -12:00	絵本を知る 絵本を読む	久松友子氏	本を読む喜びを子どもたちに伝えるために まず、絵本についての知識を身につける。
2	10月23日 (木)	10:00 -12:00	絵本を知る 絵本を読む	久松友子氏	子どもたちに絵本を読み聞かせるとは どういうことか、読み聞かせにふさわしい 絵本の選び方を学ぶ。
3	11月27日 (木)	10:30 -12:00	昔話の世界	平塚ミヨ氏	優れた語り手のおはなしを聞き、 おはなしの世界を楽しむ。
4	2月12日 (木)	10:00 -12:00	おはなしを 楽しむ	徳永明子氏	優れた語り手のおはなしを聞き、 おはなしの世界を楽しむ。

主催＝おはなしがらがらどん 協力＝成田市立図書館

*この講座は独立行政法人「子どもゆめ基金」の協力と助成を受けて開催します。

お問い合わせ先 成田市立図書館 児童担当 田中・久末(TEL 0476-27-4646)

第1回 記録

実施日時 平成20年10月9日(木) 午前10時～12時

活動場所 成田市私立図書館2階集会室

指導者名 久松 友子氏

外部指導者 1名 団体構成員 11名

参加人数 33名

活動内容

1. 主催者挨拶・・・おはなしがらがらどん代表 橋川 美智子
開講のことばと挨拶、講師紹介

2. 講座「絵本を知る 絵本を読む」

第1回 絵本を知る

○資料の説明

【資料参照】

グループの子どもたちへ

- ・ 「読み聞かせ」にむく幼児絵本、昔話絵本
- ・ 「読み聞かせ」にむく小学校低・中・高学年の絵本
- ・ 「読み聞かせ」にむく知識の本、詩、ことばあそびの本
- ・ 「よみきかせ」をする人たちにおすすめの本
- * 長い経験からお勧めの本をリストアップ。
- * 松岡享子著『えほんのせかい こどものせかい』は基本なので、読んでいただきたい。

○レジメに沿って解説

【レジメ参照】

石井桃子氏の「本は一生の友だち」(2007年 教文館 ナルニア国に寄せられた文章)を紹介。

* 子ども時代に本に出会う。その本は子どもと共に成長し、子どもの中に生き続ける。 石井桃子先生が、かつら文庫の活動の中で、長年子どもたちを觀てきたことによって、裏付けされた言葉だと思う。

私たちはこの石井桃子先生の気持ちを汲んで絵本の世界、物語の世界を子どもたちに読んで、手渡ししていったらよいのではないかと思う。そういう姿勢で皆さんが子どもたちと接していられるよう、一緒に考えていきたい。

①『読み聞かせ』(reading aloud)とは？

②『読み聞かせ』に適した、絵本の選び方

*読み手の自己満足で本を紹介するのではなく、子どもと一緒に本の世界を楽しめるかどうか・・・を大切にする。

- * それぞれ好みがあると思うが、本を選ぶ時は自分勝手ではいけない。ふさわしいかどうかを考える。
- * 選書に迷った時には、基本図書と比較すると良い。ものさしになる基本図書は何冊か持っているといい。資料の中にリストアップしたものは、参考になると思う。

③読み方について

- ・本の持ち方を数人の受講生が実践し、アドバイスを受けた。
 - * 子どもの視線（角度）に気をつける。そのために読み聞かせする椅子は、子どもたちが使用しているものを利用するのも良い。
 - * 自分にとって安定した持ち方で、なおかつ、子どもたちが見えやすい持ち方をする。
 - * 題名の世界に引き込むねらいから、絵本の著者、訳者、画家、出版社、は読まない。
 - * 読み手は黒子、文章を届けてあげる。
 - * 読み終わりは、余韻を大切にする。
 - * 間の取り方を工夫する。（「11ぴきのネコ」を引用）
- ・初心者へのアドバイス
 - * 横長の絵本は持つのが難しいので、よく練習すること。
 - * 絵の部分と文章の部分がはっきりと分かれている絵本は一般的に読み易く、また、白地に黒字で書かれているものは、暗色の彩色を背景にして書かれている文字と比べると読み易い。
 - * 文章量が多くないものを選ぶ。

④練習のしかた

- * 持ち方、読み方共に、とにかく1にも、2にも練習することが大事である。

⑤「プログラム」の組み方

宿題 「プログラム」作成

次回（10月23日）、受付に提出

- ・質疑応答から
 - * 選書は子どもに迎合しない。一期一会ということを忘れずに。
 - * 献辞は読まない。見返しは楽しむ。
- ・最後に

ドン・フリーマンの作品を3冊、ブックトークで、紹介していただいた。

『子リスのアール』BL出版、『しずかに！、ここはどうぶつのとしょかんです』BL出版、『野はらの音楽家マヌエロ』あすなろ書房

『野はらの音楽家マヌエロ』は実際に読み聞かせをしていただいた。

第2回 記録

実施日時 平成20年10月23日(木)

活動場所 成田市立図書館2階集会室

指導者 久松 友子氏

外部指導者 1名 団体構成員 20名

参加人数 31名

活動内容

受講生による絵本の読み聞かせの実践とそれについての講評

1. こぶたのバーナビー (加藤) 11分

U・ハウリハン 作 なかがわそうや 絵 福音館書店

- * 頭は動かさないようにして読む。
- * 語尾が流れないように注意する。
- * 絵本は分かち書きをしているが、分かち読みはしないで、文章として読む。
- * 「プーッ、プーッ」のところは声に出して後ろまで聞こえるようにする。
- * 間の取り方、声、スピード、テンポが良い。
- * 余韻を大切にする。

2. 3びきのやぎのがらがらどん (柳澤) 6分

マーシャ・ブラウン 絵 瀬田貞二 訳 福音館書店

- * 絵と文章を一致させるために、工夫して読む。
- * 戦いの場面では十分に間を取る。

3. ぼく びょうきじゃないよ (鹿野) 14分

角野栄子 作 垂石眞子 絵 福音館

- * 最後の文章「ごろごろ がらがら」は、最後の絵のところで読んであげる。
- 4. ぼく おつきさまとはなしたよ (坂本) 10分
- * アクセントは意識しすぎると絵本の全体の雰囲気損なうことがあるので余りこだわらなくていいが、かといってアクセントの重要性を軽んじてはいけない。
文章の中の同じことばのアクセントは変化させないように。

5. こすずめのぼうけん (狩谷)

- * 出だしはゆっくり、大切に読むこと。
- * 絵と文章が一致しているので、むずかしい本ではないが、各々の鳥のイメージ、鳴き方の特徴をとらえることが大事。

6. こぶたのバーナビー (吉井)

U・ハウリハン 作 なかがわそうや 絵 福音館書店

- * 「プーッ、プーッ、」のところは、声に出して書いてあるように読む。
- * イメージ(起承転結)を描き、繰り返し繰り返し読むことでこどもたちの心に届く。

7. どうながのプレッツェル (北川)

マーグレット・レイ 作 H・A・レイ 絵 福音館書店

*かわいい物語

8. マフィンおばさんのパンや

竹内亜紀 作 河本祥子 絵 福音館書店

*絵が細かい。 低学年向き。

◎物語を子供たちに届けるためには、物語の起承転結を考えながらイメージを作り上げていく、そして間の取り方を意識して、繰り返し繰り返し、声に出して読む練習をすることが大切である。

『ふしぎなナイフ』・・・ことばあそび（全部端から端まで読まなくて良い。）

時間調整用に用いることもできる。

ホッとした時に用いると良い。

『しっぽのはたらき』・・・二冊で使うと良い。（ふたりで90度に曲げて読んでみる）

『しずかにここはどうぶつのとしょかんです』B・L出版

図書館司書の方は図書館のレクチャーに使える。

宿題のプログラムについては先生がコメントをして返却する。

第3回 記録

実施日時 平成20年11月27日(木) 午前10時～12時

活動場所 成田市立図書館2階集会室

指導者 平塚 ミヨ氏

外部指導者 1名 団体構成員 20名

参加人数 30名

活動内容

おはなし!おはなし!“平塚ミヨさんのおはなし会”

(1) 始まりの手遊び

はじまるよ はじまるよ はじまるよったら はじまるよ (2回繰り返す)

1本と1本で おしずかに

2本と2本で 歩かない

3本と3本で よく見てね

4本と4本で よく聞いて

5本と5本で 手はおひざ

「1. しー 2. あるかない 3. よくみてね 4. よくきいて 5. てはおひざ」の順

*楽しく歌いながら、お話を聞く姿勢がすっかり整う。

(2) 『みはらしやま』～『のはらうた』より～

(秋のおはなし)

※おはなしの合間のお話(その1)

【くにたちおはなしの会の活動紹介】

- ・大人のためのおはなし会を、図書館で毎月1回行っている。
12月・1月はお休み。年間10回×35年＝通算350回。
- ・おはなしの会の当初のメンバーは17名。
40年を経て、現在70名(うち旧メンバーが2名)。

【おはなし会について】

- ・良いおはなし会は、語り手と聞き手の両方に責任がある。
(一つの空間を共有するので。)
- ・『おはなし』を純粹に楽しみましょう。
語り手がどうかではなく、聞き手がどれだけおはなしの内容をイメージ

できるかにかかっている。

一方で、語り手も、聴き手がイメージしやすい言葉を伝えることが大事。

- ・聞き手一人一人によって、おはなしのイメージは違う。

生まれ育った環境が違うため。

(2) の続き

まどみちおさんの詩「おちばのうた」

(3) 葉っぱの魔法

(このおはなしは、秋、4年生後半くらい～の子ども達に語っている。)

(3) の続き

詩『おちば』 まどみちおさんの詩

(6年生～の子ども達に朗読している。)

(4) おはなし『びんぼう神』

※おはなしの合間のお話 (その2)

- ・季節に合ったおはなしの方が、聞き手もイメージしやすい。

- ・おはなし会のプログラムの例。

学校に赴く場合、一つのプログラムは45分。

日本の昔話、外国の昔話、創作、絵本も必ず入れる(高学年にも)。

- ・国立市内の8校には、全学年におはなし会をしに行っている。

私立の学校(くにたち学園)にも1・2年生におはなし会をしている。

学期に1回=年間3回。

- ・子どもの『聞く力』が育つまで、継続的におはなしを聞かせることが大切。

保育園や幼稚園の場合、年少クラスから年長クラスまで、できるだけ同じ人が語ることが望ましい。

(3ヶ月くらい、同じ人が同じおはなしでも。)

手遊びも同様に。

- ・おはなしは、言葉の文化遺産。伝え続けることに意義がある。

- ・国立では、何年かおきに、図書館でおはなし・絵本の読み聞かせボランティアの養成講座を開いている。新しい人を育て続けている。

- ・ケンブリッジ方式を導入。

(違うおはなしグループでも、自由に行き来、実習を重ねている。)

- ・おはなしは、『してあげる』ものではなく、『(子どもに) させてもらう』もの。

おはなしは、語り手自身が自分を見つめる機会でもある(根気のなさ、記憶力など)。

(5) おはなし『グラのきこり』

(6) おはなし『犬とにわとり』

石井桃子さんのおはなしを、次世代へ伝えていきたい。口承していきたい。

(7) おはなし『おとつあんのすることはいつもいい』

幼い頃に聞いたおはなし。

思い出すたび、「いい話だな」と思う。年を経るごとにその思いが増している。

第4回 記録

実施日時 平成21年2月12日(木) 午前10時30分～12時00分

活動場所 成田市図書館 2階集会室

指導者 徳永 明子氏

外部指導者1名 徳永 明子氏 団体構成員 22名

参加人数 24名

活動内容

- ・「ちゃちゃつぼ」

がらがらどんメンバーによる手遊び

ちゃちゃつぼ ちゃつぼ ちゃつぼにや ふたがない そこをとって ふたにしよ

- ・「おだんごスープ」 角野栄子／文 市川里美／絵 偕成社

がらがらどんメンバーによる絵本の読み聞かせ

「おはなしを楽しむ」徳永明子氏によるおはなし

- ・わらべうた「いもいも」

手をつかって

いもいもしょ

いもにんじんしょ

いもにんじんさかなしょ

いもにんじんさかなしいたけしょ

いもにんじんさかなしいたけごぼうしょ

いもにんじんさかなしいたけごぼうろうそくしょ

いもにんじんさかなしいたけごぼうろうそくしちりんしょ

いもにんじんさかなしいたけごぼうろうそくしちりんはまぐりしょ

いもにんじんさかなしいたけごぼうろうそくしちりんはまぐりくじらしょ

いもにんじんさかなしいたけごぼうろうそくしちりんはまぐりくじらとうふしょ

- ・福岡の昔話「ものいう亀」

会話は福岡の言葉で、話の部分は標準語で再話しています。

- ・ジプシーの昔話「バラの花とバイオリンひき」

東京子ども図書館で活動していた時に覚えたお話。

ジプシーの人たちは、自然とともに生きています。

ジプシーの人たちが大切にしているのは、歌や踊りです。

・グリムの昔話「六羽の白鳥」

子供の頃に家にあったグリムの本を母親に読んでもらった。

今回の語りは、小沢俊夫訳のお話を自分なりに語りやすく手を入れたもの。

・わらべうたの手遊び「でんでらりゅうば」

でんでらりゅうば でてくるばってん

でんでられんけん でてこんけん

でんでられんけん こられられんけん

こーん こん

・宮澤賢治 作「注文の多い料理店」(序文と童話)

戦争が終わった翌年に出版された宮澤賢治全集の最初の一冊です。紙質などはあまり良くなかったが、子どもの頃に宮澤賢治の本と出会えた事がとても幸せな事であった。

・福岡の昔話「ねずみ経」

福岡の言葉で語っていただきました。

最後に、徳永明子氏より

読みきかせでも、お話でも楽しむことが大切です。

人の話を楽しんで聞く事が大切です。お話の中味、絵本の中味を伝えるという事が大切なことだと思います。